

東京国立博物館 ニュース

2004

9 10

月号

本館 日本ギャラリー リニューアル グランド・オープン 2

中国国宝展 6

平常展見どころ案内 2004年9・10月 8

国宝 平治物語絵巻 / 古筆を楽しむ / 銅鑼の絵画 /
中国宋時代の彫漆 / 中国書画精華

はくぶつかん散歩 寛永寺本坊門址記念プレート 10

東京国立博物館コレクションの保存と修理 11

教育普及事業のお知らせ 11

ようこそ! 博物館の舞台裏へ 保存と修理の世界 12

INFORMATION コンサート・演劇・リニューアル記念企画 14

TOPICS / Who's Who in 東博 15

2004年9・10月の展示・催し物 16



東京国立博物館本館 日本ギャラリー(リニューアル) 2004年9月1日グランドオープン

日本美術の12000年がぜんぶわかる

日本美術の殿堂、東京国立博物館の本館(日本ギャラリー)が生まれ変わります！

2階の時代別展示「日本美術の流れ」は、時代ごとのテーマ性を強く打ち出し、より時代の流れをつかみやすく、わかりやすくになりました。

1階を中心とした分野別展示も構成を見直し、質・量ともにさらに充実した平常展を展開します。ようこそ新しい本館(日本ギャラリー)へ。

時代別展示

まずは2階へ！

国宝や重要文化財などの名品だけでなく、ほんもの美術史がここにあります。縄文時代から江戸時代までの日本の文化史、美術史を短時間でつかめるので、初めて来館されたお客様、外国からのお客様、学校の授業などでの観覧にもおすすめです。仏教の興隆、宮廷の美術「禅と水墨画」、武士の装いなど、特色あるテーマを設定しているので、時代と文化の背景をつかみながら鑑賞していただけます。

1室

1 日本美術のあけぼの

縄文・弥生・古墳

およそ12000年前に始まる縄文時代の土器や土偶の造形が、日本美術の流れのスタートです。つづいて、弥生時代の土器と銅鐸などの金属器、古墳時代の土師器・須恵器・埴輪などの焼き物の造形美、鏡・武器・武具・



火焔土器

●賢愚経断简(大聖武)

6世紀半ば、朝鮮半島の百濟から金銅釈迦仏などがもたらされ、日本文化に仏教の受容とともに飛躍的に進歩しました。この展示室では、飛鳥時代から奈良時代にかけての仏像や経典、仏具、舍利容器など古代の仏教美術を展示します。

- 9月1日、10月3日 普賢立像 飛鳥時代・7世紀
- 賢愚経断简(大聖武) 伝聖武天皇筆
- 奈良時代・8世紀 ほか

2 国宝室

2室

絵画・書跡の国宝作品を、ゆったりとした空間で心静かに鑑賞するために、特別に設けた展示室です。東京国立博物館に所蔵、あるいは寄託されている国宝から、とくによりすぐった作品を一件ずつ展示します。

- 9月1日、10月11日 ●普賢菩薩像 平安時代・12世紀
- 10月13日、11月24日 ●鳥獣人物戯画卷 甲巻 平安時代・12世紀 京都・高山寺蔵
- 11月23日、12月26日 ●華嚴宗祖師絵伝 元暉絵 巻上 鎌倉時代・13世紀 京都・高山寺蔵
- 2005年1月2日、2月13日 ●白氏詩巻 藤原行成筆 平安時代・寛仁2年(1018)
- 2月15日、3月27日 ●伝藤原光能像 鎌倉時代・13世紀 京都・神護寺蔵
- 3月29日、5月8日 ●秋冬山水図 雪舟等楊筆 室町時代・15世紀



●普賢菩薩像

3室

3 1 仏教の美術 平安室町

平安時代に空海らが中国から導入した、密教の豊かな造形をご覧いただけます。

平安後期から鎌倉時代にかけては新しい仏教の諸宗派が誕生。装飾経や、祖师像、高僧伝絵、寺社の由来や霊験譚をまとめた縁起絵など、この時代の仏教美術を展示します。

- 9月1日、10月3日 ●十六羅漢像(第九尊者) 平安時代・11世紀
- 円珍贈法印大和尚位並智証大師謚号勅書 小野道風筆 平安時代・延長5年(927)
- 10月5日、11月14日 ●三宝絵詞 鎌倉時代・文永10年(1273) ほか

3 2 宮廷の美術 平安室町

平安時代中期、中国文化「二辺倒」だった宮廷文化は大きな転換期を迎え、日本的な美意識に基づく独自の文化を開花させました。この時代の文化を読み解く鍵は和歌と「源氏物語」をはじめとする物語です。これらを書写した古筆、絵画化した絵巻、意匠化した工芸作品などを展示します。

- 9月1日、10月3日 ●平治物語絵巻(六波羅行幸巻) 鎌倉時代・13世紀 松平直亮氏寄贈
- *平治物語絵巻については本誌8頁参照
- 古今和歌集巻第十八断简(高野切本) 伝紀貫之筆 平安時代・11世紀 個人蔵 ほか

3 3 禅と水墨画 鎌倉室町

鎌倉時代、禅の導入とともに中国から新しい波、水墨画をはじめとする南宋から元にかけての美術がもたらされました。室町時代には水墨画は禅宗寺院の枠を越えて、日本に定着します。周文・雪舟・雪村・狩野元信らによる水墨画の名品と禅僧の筆跡、墨跡」を展示します。

- 9月1日、10月3日 ●竹斎読書図 伝周文筆 室町時代・15世紀

4室

4 茶の美術

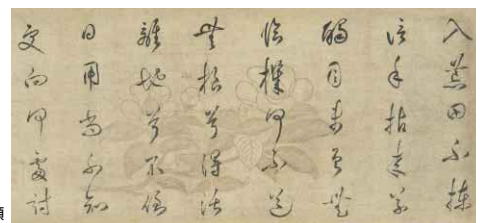
室町時代に生まれ、安土桃山時代に千利休が大成した「茶の湯」は、日本が世界に誇る伝統文化のひとつです。この茶の湯の世界を構成するさまざまな書画、花入、懐石の器、水指、釜、茶入、茶約、茶碗などを紹介します。

- 9月1日、12月12日 ●青磁茶碗 銘馬蝗絆 龍泉窯 南宋時代
- 13世紀 三井高大夫寄贈 大井戸茶碗 有楽井戸 朝鮮時代・15、16世紀
- 松永安左工門氏寄贈 ほか



大井戸茶碗 有楽井戸

偈頌



5室・6室

5・6 武士の装い 平安江戸

平安時代末の源平の争乱から明治維新まで、約七百年にわたって、政治の実権を握った武士の文化を紹介します。武士の道具のなかでも最もたいせつにされた刀剣をはじめとして、甲冑や馬具、装束、さらに武士の肖像画や書状などを展示します。

- 9月1日、12月12日 ●群鳥文兵庫鎖太刀号 上杉太刀(鎌倉時代・13世紀)
- 白糸威鏡 鎌倉時代・14世紀 鳥根・日御碕神社蔵 ほか

7 屏風と襖絵 安土桃山・江戸

襖や屏風に描かれた絵、障屏画の、大画面の魅力を味わうための部屋です。たとえば、金地極彩色の屏風と水墨画の屏風では、そこに作られる空間は大きく異なります。建築や時代によって異なる障屏画のさまざまな表現をご覧ください。

- 9月1日～10月11日 ●楼閣山水図屏風 池大雅筆
- 江戸時代・18世紀 団伊能氏寄贈
- 10月13日～11月21日 歌舞伎図屏風 菱川師宣筆
- 江戸時代・17世紀

8 1 暮らしの調度

安土桃山・江戸

海外との交流が盛んになり、国内の経済活動も活発になった安土桃山時代、太平の世が二五〇年以上も続いた江戸時代、このふたつの時代を通して日本文化は武家や町人たちに支えられ



柴垣萬時絵硯箱

成熟の度を深めました。この時代に入り、この身の回りを飾った、さまざまな調度類を展示します。

- 9月1日～12月5日 鼠志野秋草図額皿 美濃
- 安土桃山・江戸時代・16～17世紀 個人蔵
- 柴垣萬時絵硯箱 古満休意作
- 江戸時代・17世紀 ほか

8 2 書画の展開

安土桃山・江戸

多彩な展開を見せた安土桃山・江戸時代の書と絵画をご覧ください。

絵画では、永徳や探幽をはじめとする狩野派を中心に、宗達・光琳・抱一らの琳派、大雅・無村らの南画派、応挙を祖とする円山派、若冲・芭蕉・蕭白ら個性派の画家たちを輩出し、まさに百花繚乱。書は、新しい書風を打ち立てた近衛信尹・本阿弥光悦、松花堂昭乗の寛永の三筆の作品、江戸時代中期以降流行した唐様の書、さらにこの時代に活躍した武将や茶人の筆跡を展示します。

9月1日～10月11日 船窓小戯帖 田能村竹田筆 江戸時代・天保元年(1830) 個人蔵

天狗説屏風 荻生徂徠筆 江戸時代・18世紀 (有愛染倉観光蔵 ほか)

9 能と歌舞伎

日本の伝統芸能に関わる面や衣裳、小道具や楽器などを紹介します。人間の表情を写し取った日本独特の造形、能面と、染織技術の粋を凝らした能装束で幽玄の世界や歌舞伎衣裳の奇抜で鮮やかなデザインと色彩にみる江戸の「いき」をご堪能ください。

9月1日～10月31日

特集陳列 金春座伝来の能装束

大和猿楽四座の一つで、春日大社の春日若宮おん祭りの後宴能や、興福寺の新年能など、奈良の古い祭祀を守ってきた金春座に伝わる衣裳を展示します。今回は金春座伝来の能装束や能面のうち、秀吉の絶大な庇護を得た金春安照(一六二)時代の優品をご紹介します。

- 9月1日～10月31日 縫箔 茶地百合御所車模様
- 安土桃山時代・16世紀
- 摺箔 紫地色紙葡萄模様
- 安土桃山時代・16世紀 ほか



摺箔 紫地色紙葡萄模様

10 浮世絵と衣裳 江戸

浮世絵 人びとの絵姿

17世紀中頃、美人や遊樂の様子を描いた庶民向けの絵や版画が数多く制作され、「浮世絵」と呼ばれて人気を集めました。遊里や歌舞伎に題材を得た作品、花鳥画や物語絵、風景画など、個性豊かな浮世絵師による多彩な作品の数々を展示します。

- 9月1日～9月26日 遊女と禿図 横月堂安履筆
- 江戸時代・18世紀
- 娘日時計・末の刻 喜多川歌麿筆
- 江戸時代・18世紀 ほか



娘日時計・末の刻

衣裳 江戸のファッションとデザイン

繊細な刺繍と摺箔で埋め尽くされた「慶長小袖」、大胆な構成の「寛文小袖」、王朝のモチーフを使った華麗な「元禄小袖」など、時代を追っていきいきとした変化を見せる江戸のファッションを紹介します。裾や裏地の見えない部分に意匠を凝らすなど、「いき」と呼ばれる独特の美意識にもご注目を。

- 9月1日～10月31日 小袖 藍縷子地熨斗菊花模様
- 江戸時代・17世紀
- 牧馬時絵印籠 金時銘 常嘉齋
- 江戸時代・19世紀 ほか



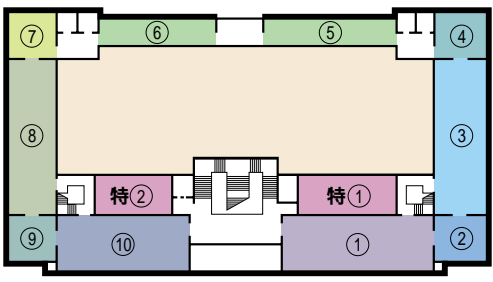
牧馬時絵印籠

3 *●は国宝、●は重要文化財、●は重要美術品を表します。特に記載のないものは東京国立博物館蔵です。



2階

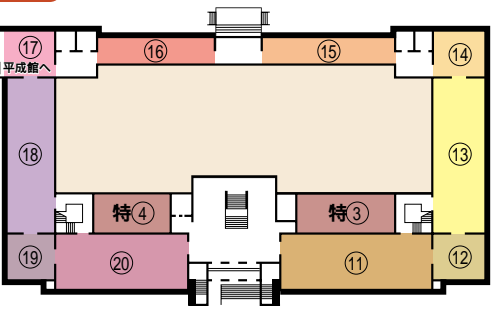
時代別展示「日本美術の流れ」



- 1 日本美術のあけぼの 縄文・弥生・古墳 飛鳥・奈良
- 2 仏教の興隆 平安～室町
- 3 国室室 平安～室町
- 4 仏教の美術 鎌倉～室町
- 5 武士の装い 平安～江戸
- 6 屏風と襖絵 安土桃山・江戸
- 7 暮らしの調度 安土桃山・江戸
- 8 書画の展開 安土桃山・江戸
- 9 能と歌舞伎 江戸
- 10 浮世絵と衣裳 江戸
- 特 1 企画展示 企画展示
- 特 2 企画展示 企画展示

1階

分野別展示



- 11 彫刻
- 12 彫刻と金工
- 13 陶磁
- 14 漆工
- 15 刀剣
- 16 工芸
- 17 民族資料 アイヌ・琉球
- 18 歴史資料
- 19 休憩室
- 20 近代美術 絵画・彫刻
- 近代工芸
- 寄贈者顕彰室
- 特 1 企画展示(閉室)
- 特 2 企画展示

分野別展示
企画展示

好きなジャンルやテーマを
じっくり見る

1階と2階の一部では、彫刻、漆工、陶磁、刀剣など一つの分野の作品をたっぷりご覧いただけます。さらに一歩踏み込んだテーマによる企画展示も展開。より深い興味をお持ちの方にオススメです。

11室

11 彫刻

日本の彫刻の歴史は、朝鮮半島から仏教が伝来し仏像が造られるようになった飛鳥時代(六世紀半ば頃)まで遡ります。この展示室では、日本独自の木彫技法が全盛期を迎えた平安・鎌倉時代の仏像を中心に、日本彫刻史をご覧ください。

9月1日～11月28日

●四天王立像 広田天
平安時代・12世紀 京都・浄瑠璃寺蔵
千手観音菩薩立像 湛慶作 鎌倉時代・
建長3(1251)～6()
京都・妙法院蔵 ほか



千手観音菩薩立像

12 彫刻と金工

飛鳥から奈良時代の金銅仏や、平安から鎌倉時代にかけて流行した鏡像・懸仏など銅板に表された仏像、さらに供養具・荘厳具・僧具・梵音具・密教法具など寺院で使われたさまざまな仏具を展示します。

12室

13室

13 1 陶磁 江戸と桃山の陶磁

華やかに飾られた江戸の陶磁と、独特の造形を誇る桃山の茶陶の二つに焦点を当てます。江戸の陶磁では、初期伊万里に始まり、古九谷様式や柿右衛門様式の色絵、金欄手や鍋島など、多彩な展開をみせる肥前の磁器、さらに仁清・乾山などの名工を輩出した京焼きを紹介。桃山の陶磁では、力強い造形と大胆な意匠による茶の湯の美学をお楽しみいただけます。

9月1日～12月5日
色絵月梅図壺 仁清 江戸時代・17世紀
一重口水指 銘柴庵 信楽 安土桃山時代
・16世紀 広田松繁氏寄贈 ほか



一重口水指

13 2 漆工

安土桃山時代、日本の漆がヨーロッパ人の眼にとまり、数多くの漆器が輸出され、漆を塗った製品は、ジャパン(japan)と呼ばれました。表面のしつと

9月1日～11月28日

鎌倉時代・12世紀 栃木・光得寺蔵
大日如来坐像
金銅三昧耶五鈷鈴
平安時代・12世紀 東京・護国寺蔵 ほか

りとした光沢、漆黒の背景に浮かびあがる金蒔絵の輝き、朱漆の鮮やかさなど、かつて世界を魅了した漆芸の美を紹介いたします。

9月1日～12月5日

特集陳列 秋草の時絵

秋の七草(萩・芒・葛・撫子・女郎花・藤袴・桔梗)や菊など、秋の植物や風景をモチーフとする時絵作品を展示します。

菊枝時絵手箱 南北朝時代・14世紀
御所車時絵硯箱 江戸時代・17世紀 ほか



御所車時絵硯箱

13 3 刀剣

刀剣と刀装の歴史を概観します。刀身は平安から江戸時代までの太刀・刀・短刀など各種の刀剣を、刀装小道具は室町時代から江戸時代に至る鐔・小柄・弁・目貫などの各種を展示します。

9月1日～12月5日
●太刀名物 三日月宗近()
平安時代・10～11世紀 渡邊誠一郎氏寄贈
吉野龍田図大小揃金具 後藤一乗作
江戸時代・元治元年・慶応元年(1864)～5()
個人蔵 ほか

14 工芸

工芸作品に様々な角度からアプローチする特集展示を展開します。

9月1日～12月12日

特集陳列 中世の陶磁

無釉の大形雑器を焼く渥美・常滑や信楽・越前、中国陶磁を写した施釉陶

14室

15 民族資料 アイヌ・琉球

を焼く瀬戸、須恵器の伝統をひき、無釉の壺・甕・鉢などを専門に作っていた珠洲・備前など、多様な広がりを見せる中世の陶磁を、時代と系譜を追ってご覧いただけます。

自然釉大壺 常滑
平安時代・12世紀 個人蔵
黄釉牡丹唐草文広口壺 瀬戸
南北朝時代・14世紀 ほか



黄釉牡丹唐草文広口壺

15室

日本列島の北辺で独特の文化を育んできたアイヌの祭祀具や暮らしの道具など、中国や日本、朝鮮半島、東南アジアとの交易のなかで独自の文化をつくりあげた琉球王国の絵画、文書、暮らしの道具、古写真などを展示。日本列島の北と南で花開いたふたつの文化を紹介いたします。

9月1日～11月28日
煙草入 北海道アイヌ 19世紀
徳川頼貞氏寄贈
イクバスイ 北海道アイヌ 19世紀
徳川頼貞氏寄贈 ほか

16 歴史資料

江戸時代の人ひとが生活のなかで作りに上げた文化の様々な姿を今に伝える



カサゴ

16室

インフォメーションもリニューアル
館全体の情報センターとしてますます頼れる存在に

本館エントランスのインフォメーションも変わります。正門から本館にまっすぐいらしたお客様だけでなく、平成館から来たお客様や平成館に向かうお客様への案内がしやすいように、階段の向かって右からの壁面に移動します。カウンターのはがごとく広く広くなって、ゆったりと対応できるようになります。また、車椅子のお客様や小さなお子様に気楽に立

ち寄っていただけるよう、カウンターの一部を低くしました。カウンターを中心としたインフォメーションエリアには、博物館全体の構内マップ、その日の催しがわかるサインボード、パンフレットやフロアガイドを自由にお持ちいただけるラックを設置します。ここにくれば、博物館のことはなんでもわかる。本館エントランスは、来館者のための頼もしい情報センターです。

18 近代美術 絵画・彫刻

日本の近代化、それは西欧文明を受け入れることでした。明治時代、西欧の合理主義思想は美術の世界にも大きな衝撃を与えました。新しい技法を積極的に取り入れようとする人びとと、伝統を守る人びととがせめぎ合い、刺激しあいながら、美術の革新がはかられま

18室

9月1日～10月11日
●群英類聚図譜 江戸時代・19世紀
カサゴ 明治7年(1874) ほか
特集陳列 田中幸徳氏寄贈
田中房種博物図譜資料

資料をご紹介します。暮らしに関わる年中行事や娯楽、生け花や俳諧・茶道・歌道といった諸芸など、現代に生きる私たちの暮らしの中にも息づく江戸の文化を探ります。



グレーの秋

した。日本美術の近代化の道筋を、絵画と彫刻作品によってたどりま。

9月1日、10月11日
出湯 小林古径筆 大正10年(1921)
グレーの秋 浅井忠筆
明治34年(1901) ほか

19室

19 近代工芸

東京国立博物館は創立期から博覧会と密接な関係にあつたため、明治六年(一八七三)のウィーン万国博覧会をはじめとする万国博覧会への出品作や、上野で行われた内国勸業博覧会の出品作、帝室技芸員の制作による作品など、多くの近代工芸作品を所蔵しています。これ

リニューアル記念事業のご案内

リレー・レクチャー「日本美術12000年」

- 9月1日(水)
13時30分～14時30分
「日本美術の創成」 松浦宥一郎(当館 席上研究員)
14時45分～15時45分
「仏像と出会った日本美術」 松浦正昭(当館 席上研究員)
- 9月2日(木)
13時30分～14時30分
「宮廷美術の伝統と武家の好み」 松原茂(当館 席上研究員)
14時45分～15時45分
「武士の装いと教養」 原田一敏(当館 席上研究員)
- 9月3日(金)
13時30分～14時30分
「花開く江戸の文化」 小松大秀(当館 席上研究員)
14時45分～15時45分
「近代・日本絵画の歩み」 玉蟲玲子(当館 列品室主任研究員)
- *平成館大講堂 定員380名 当日受付先着順

リニューアルトーク

- 9月4日(土)
13時30分～14時30分
「大好き!日本美術」 はな(タレント)、島谷弘幸(当館 展示課長)
*本館特別5室 定員400名、当日受付先着順

10月7日(木)

- 13時30分～15時
「女性と美術」 瀬戸内寂聴(作家)
*本館特別5室 聴講料1000円 定員400名 事前申込制
*申し込みは官製復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申し込みください。
*1枚の往復はがきで、1人のみ申し込み可能。
*応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券1枚で1人聴講可を送ります。料金は当日お支払いください。
申込先: 〒103-0014 中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F 瀬戸内寂聴トークショー係
*締切: 9月22日(水)必着

リニューアルレクチャー

- 9月7日(火)
14時～14時30分
「本館リニューアル2004・デザインコンセプト3か条」 木下史青(当館デザイン室主任研究員)
14時30分～15時
「リニューアル・オープンにおける芸能衣装展示」 小山弓弦葉(当館列品室研究員)
*平成館大講堂 定員380名、当日受付先着順

記念講演会

- 9月18日(土)
13時30分～15時
「生まれ変わった本館・リニューアルの工夫とみどころ」 島谷弘幸(当館 展示課長)
*平成館大講堂 定員380名 当日受付先着順

文化庁舞台芸術国際フェスティバル

- 上野の森ミュージアムコンサート
9月18日(土) 19日(日) 13時 / 15時の2回
上野公園にある3つの美術館・博物館、当館と国立科学博物館、国立西洋美術館の3館で催されるコンサートです。東京国立博物館では「雅楽」をお楽しみいただけます。
*本館エントランスホール
演奏 東京楽所(とうきょうがくそ)
主催 文化庁舞台芸術国際フェスティバル実行委員会
曲目 双調(そうちょう)・音取(ねとり)・賀殿急(かてんのきゅう)・酒胡子(しゅこうし)・胡飲酒破(こんじゅのは)ほか
*当日時間までに会場にお集まりください

特に記載のないものは聴講・参加無料
(ただし当日の入館料は必要)

らを中心に、優れた技巧によって生み出された近代工芸の粋を紹介いたします。

9月1日、11月28日
釉下彩鳥柿図大瓶 加藤友太郎作
明治時代・20世紀
七宝花蝶文瓶 並河靖之作
明治25年(1892) ほか



釉下彩鳥柿図大瓶

20室

20 寄贈者顕彰室

東京国立博物館の収蔵品は、主に寄贈品と購入品からなっています。明治五年(一八七二)の創立以来、三千人を超える方から数多くの優れた作品を寄贈いただいています。が、これらの寄贈品は平常展や特別展において随時活

特別1室・特別2室

特1・特2 企画展示

人気の書跡・絵画をじっくり楽しむ
特集展示を行います。

9月1日、10月24日 特
特集陳列「古筆を楽しむ」

継色紙 伝小野道風筆 平安時代・11世紀
秋秋帖 伝小野道風筆

平安時代・11～12世紀
*詳細は本誌9頁参照 ほか
9月1日、10月11日 特
特集陳列「肖像画」

江戸時代までの日本の肖像画は、没後に遺族や弟子が画家に描かされたものが一般的でした。描かれた人物は、平安時代まではそのほとんどが僧侶ですが、鎌倉時代以降、貴族・天皇・武家・文化人も描かれるようになり、室町時代末以降は女性や子どもの肖像も稀に作られています。江戸時代には俳



坪内老人大画像稿

特別3室・特別4室

特3・特4 企画展示

様々な分野の特集展示を行います。
(特 はリニューアル当初は閉室)

9月1日、10月11日 特
特集陳列「銅鐸の絵画」

*銅鐸 伝香川県出土 弥生時代中期・紀元前2世紀・紀元前1世紀
銅鐸 兵庫県豊岡市気比出土 弥生時代中期・紀元前2世紀・紀元前1世紀 ほか
*詳細は本誌9頁参照

人、戯作者、歌舞伎役者、浮世絵師など、肖像画に描かれる人もかなり広い範囲にわたるようになります。今回は江戸時代の俗人男性の肖像画を中心に、鎌倉時代から室町時代の作例を加えてご覧いただけます。

後白河法皇
鎌倉時代・13世紀 京都・妙法院蔵
坪内老人大画像稿 渡辺華山筆
江戸時代・文政元年(1818)
岡野栞氏寄贈 ほか

中国国宝展

中国仏教美術一〇〇〇年の歴史と、
世界を驚かせた中国考古の新発見に焦点を当て
約一七〇件の優品により
中国文化の真髄を紹介します。

仏教美術

中国仏教の一〇〇〇年を名品でたどる

「仏教美術」のコーナーでは、中国各地から集めた粒よりの作品で、日本文化に大きな影響を与えた中国仏教美術の約一〇〇〇年にわたる変遷を、四つのテーマに分けてたどります。

■ 仏教の伝来と受容

中国の仏教伝来初期、後漢・三国・晋・五胡十六国時代（一―五世紀）の作品を概観し、仏教受容の過程を探ります。中国へ仏教が伝来したのは、紀元前後頃、前漢末から後漢初めのことです。これ以後、しばらくの間は、中国の伝統的な

思想・宗教と結びついた形で仏教が受け入れられ、揺銭樹（写真）や神亭壺（写真）などに見られるように、仏像は中国古来の神仙と同列に表現されていました。ここでは、中国初期仏教の実態を示唆する珍しい遺品をとりそろえています。

■ 仏教の広がり

漢族の南朝と北方民族の北朝とが並立した、南北朝時代（五―六世紀）の仏教美術を紹介します。この時期には、国家的な規模で仏教が大いに盛行し、各地で仏教寺院が建立され、また石窟寺院も盛んに造営されるなど、仏教文化はこれまでにな

いほど広がりを見ました。この時期の仏像は、外来様式の模倣（写真）、中国独自の様式の形成（写真）、新たな外来様式の影響（写真）という三つの段階にわたる変遷がみられ、また、地域的な特色を示す仏像も数多く制作されました。

日本
初公開



揺銭樹台座
後漢～三国時代・2～3世紀
四川省彭山県116号墓出土
高21.3cm 江蘇省・南京博物院蔵
中国における初期の仏教信仰を物語る非常に稀少な遺品



神亭壺
三国時代(呉) 3世紀後半
江蘇省金壇市唐王東吳墓出土
高48cm 鎮江市博物館蔵
様々な動物とともに仏像が多数表現された珍しい作例



金銅如来坐像
北魏時代・5世紀 北京市延慶宗家宮出土
高33.5cm 北京市文物研究所蔵
澹刺(はつらつ)とした作風の中に
西方的な要素が色濃く見られる



日本
初公開

菩薩半跏像
北齊時代・6世紀 山東省青州市龍興寺址出土
高69cm 山東省・青州市博物館蔵
龍興寺址から出土した3体の半跏像の1つで、最もよく残っている

日本
初公開

菩薩立像
東魏時代・6世紀
山東省青州市龍興寺址出土
高110cm 山東省・青州市博物館蔵
気品と美しさが漂い、東魏の端正な作風をよく示す



三 仏教の隆盛

仏教が隆盛をみた隋から北宋にかけて(六世紀末～十二世紀初)の豊かで多彩な造形を一覧いただきませう。南北朝の後、中国全土を統一した隋・唐では、仏教文化は空前の繁栄をみしました。この時代の仏像は、西方からの新たな影響を受けつつ、国際色豊かな文化の彩りが加味されて、写実味あふれる様式が形成されました(写真)。また、唐時代末期から、五代・北宋時代にかけては、中国仏教に変化のきざしが現われ、道教などの在来及び民間信仰と徐々に混交しながら、独自の発展をとげていきます(写真)。

四 仏舎利の信仰

仏舎利(釈迦の遺骨)に対する信仰が民衆の間にも広く普及するようになった唐から五代・北宋時代(七～十二世紀)に焦点をあて、紹介します。仏塔から発見された舍利容器(写真)をはじめとする様々な納入品に注目し、中国における仏舎利及び仏塔に対する厚い信仰の様を眺め、中国仏教の真髓に迫ります。
(松本伸之)



舍利容器
唐時代・9世紀初 江蘇省鎮江市甘露寺鉄塔出土
長11.6cm 江蘇省・鎮江市博物館蔵
精緻な文様表現などに、当時の厚い舍利信仰の様がうかがえる



如來坐像
唐時代・8世紀 山西省芮城県風陵渡東章出土
高93cm 山西省・芮城県博物館蔵
初唐の典型的な作風を示し、おごそかな雰囲気漂わせる秀作



阿彌陀經斷簡 唐時代・9世紀 浙江省麗水市龍泉塔出土
29.0×45.5cm 浙江省・浙江省博物館蔵
『仏説阿彌陀經』の残巻で、日本の『絵因果経』との関連も注目される

日本初公開

中国考古

驚異の新発見・日本初公開作品も多数出品



日本初公開

石製鎧甲
秦時代・紀元前3世紀、陝西省西安市秦始皇帝陵出土
鎧：高75cm 陝西省・秦始皇兵馬俑博物館蔵
人が着られる大きさ。ていねいに作られており大変な迫力

「考古学の新発見」では、近年の出土品のなかから注目すべき作品約七十点を展示します。玉器、青銅器、俑を中心とした構成で、新石器時代から唐時代まで、各時代の作品が含まれています。
なかでも注目されるのは兵馬俑で有名な秦始皇帝陵の新出土品です。秦始皇帝陵といえは兵馬俑(兵士や馬を表した土製品)が有名ですが、今回の展覧会では、石片を銅の針金で綴って作った石製鎧甲(写真)

(や、役人の姿を表した文官俑、青銅製の鶴などを展示します。いずれも中国以外で公開されるのは初めてで世界が注目している作品です。他にも美しい玉器、古代の歴史を記した青銅器、不思議な造形の漆器などなく、盛りだくさんの内容です。考古の新発見のコーナーについて詳しくは、本誌次号でご紹介いたします。ご期待ください。(谷 豊信)

「中国国宝展」

9月28日(火)～11月28日(日) 東京国立博物館 平成館
主 催：東京国立博物館、朝日新聞社、テレビ朝日、中国国際文物局、中国国際博物館(中国文化交流中心)
後 援：外務省、文化庁、中国大使館、(社)日中友好協会、人民日報社
協 賛：トヨタ自動車株式会社、凸版印刷株式会社、松下電器産業株式会社、東日本旅客鉄道株式会社
協 力：講談社、小学館、ニッセイ同和損害保険、全日空
観覧料：一般1300円(1100円/1000円) 高校・大学生900円(800円/700円) 小・中学生 無料
*()内は、前売り/20名以上の団体料金
* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください
巡回予定
2005年1月18日(火)～3月27日(日) 大阪中之島・国立国際美術館(新館)

中国国宝展 記念講演会

- 第1回 10月9日(土)13時30分～15時 平成館大講堂
「中国の仏教美術」 小泉恵英(当館特別展示室長)
- 第2回 10月30日(土)13時30分～15時 平成館大講堂
「中国考古学の新発見」 谷 豊信(当館列品課長)
- 事前申込制(各回定員380名) 聴講無料(ただし特別展観覧券が必要)
【申込方法】官製往復はがきの「往信用裏面」に、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・年齢・希望日、「返信用表面」に、郵便番号・住所・名前を明記して下記までお申込ください。
1枚の往復はがきで、1人のみ申込可能
応募多数の場合は、抽選のうえ受講券(1枚で1人受講可)を送ります
【申込締切】第1回 2004年9月24日(金)必着
第2回 2004年10月15日(金)必着
【申込先】〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9 ヤマナシビル4F
「中国国宝展」講演会係まで

これだけは見逃せない！
おすすめの
この1点

兵士たちの豊かな表情と華麗な色彩が見どころ

国宝 平治物語絵巻 六波羅行幸巻

9月1日(水)～10月3日(日) 本館3室

保元の乱に戦功のあつた源義朝と平清盛との勢力争いに、藤原信賴と信西との権力闘争がからんだ平治の乱(一一五九)の顛末を叙述する『平治物語』を絵画化した、現存最古の合戦絵巻です。本来この一巻と一セツトだったと思われる『二条殿夜討巻』(ボストン美術館蔵)、『信西巻』、『静嘉堂文庫美術館蔵 重要文化財』の一巻とく、十数枚の色紙の形に切断された『六波羅合戦巻』の断簡(大和文華館ほか蔵)が現存していて、当初は十数

巻におよぶ大部な絵巻であったと考えられます。詞書は全巻ひとりの筆で書かれていて、後京極流(後京極良経を祖とする)の書風を示し、筆線に震えが目立つことから、『才葉抄』に「御筆書てめそはしたる」と記される九条教家(後京極良経の二男)の書を連想させます。

『六波羅行幸巻』は、信賴方に幽閉されていた二条天皇が、ひそかに内裏を脱出して六波羅邸に行幸するところ(第一段)、天皇の養母美福門院



●平治物語絵巻 六波羅行幸巻(第4段部分)
天皇の脱出を知って悔しさのあまり地団太を踏む信賴

の六波羅御幸(第二段)、駆けつける公家たちの車でこたがえす六波羅邸門前(第三段)、天皇の脱出を知って悔しがる信賴(第四段)の四場面からなっています。大名茶人松平不昧の愛蔵品で、昭和十三年(一九三八)に同家から当館に寄贈されました。

『平治物語絵巻』の見どころは、背景の描写を抑えた巧みな群像表現と精緻な甲冑の描写、兵士たちの豊かな表情と華麗な色彩です。

加えて、武士が英雄的な個人としてではなく、「群れ」「かたまり」として、また脇役として描かれ、とくに『六波羅行幸巻』では、天皇の牛車の前にひざまづき、朝廷に奉仕する「理想の武士」として描かれている、という池田忍氏の指摘は、『平治物語絵巻』の成立を考える上で重要です。つまり、この絵巻は、すでに朝廷が権力を主張できる状況ではなかつた十三世紀後半において、番人のような忠実さで奉仕する武士の姿を見たかった立場の人々によって制作され、かつ鑑賞された絵巻だったということなのです。(松原 茂)



●平治物語絵巻 六波羅行幸巻 鎌倉時代・13世紀 縦42.2cm 長さ952.9cm (第1段後半部分)
内裏に幽閉されていた天皇は、清盛方の計略で女装して脱出し、合流した重盛・頼盛らに警護されて六波羅邸に到着した。天皇の乗った牛車を迎える武士達は、忠誠心を表すかのようにひざまづき、整然と居並ぶ

企画展示 書跡

筆跡はもちろん料紙や表装にも注目 特集陳列「古筆を楽しむ」

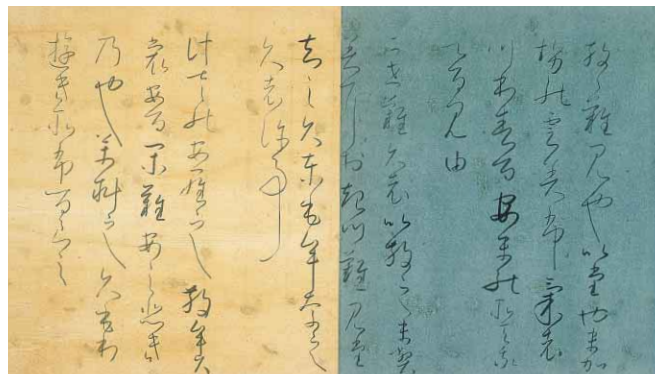
9月1日(水)～10月24日(日) 本館特別1室

古筆とは、本来は古人の筆跡を指す言葉ですが、今日では平安時代から鎌倉中期ころまでの主として歌集を書いた筆跡を、古筆と呼んでいます。

この古筆の元の形は、巻物や冊子本で、宮廷や貴族の身の回りにおいて鑑賞する調度手本として作られました。料紙や巻物の紐や軸を選ぶこと、また収める箱にまで神経を注がれましたが、もっとも重点が置かれたのが筆跡です。文字の形の美しさ、洗練された連綿、墨と余白が織り成す美しさなどの筆者の美意識を味わい、そして書写された和歌など

をじっくりと楽しみながら、「ご覧ください。」

その美しい筆跡を手許で鑑賞したいのは人情です。茶道の盛行にともない、古筆の愛好熱は一気に高まり、それまで巻物や冊子として伝存したものが、人々のもとめに応じて切り離され、大量の断簡が誕生しました。掛物として、また、手鑑古筆などを集めて帖としたものに貼られ、より多くの人々に鑑賞されることになったのです。鑑賞する際の効果を熟考した表装の美しさも見てごろです。(島合弘幸)



●秋萩帖
伝小野道風筆 平安時代・11～12世紀
様々な色の料紙も美しい

中国漆工

稀少な作例を一堂に会する初の試み 特集陳列「中国宋時代の彫漆」

9月7日(火)～10月3日(日) 平成館 企画展示室

彫漆とは、漆の層を厚く塗り重ね、文様を彫り表す技法をいいます。中国の彫漆は、かつてはその多くが明清時代に作られたものとされてきましたが、ここ三十年の研究の進展により、それに先立つ宋・元時代の作品が次第に認められるようになりまして、なかでも宋時代の彫漆は、およそ五十点の作品が知られるようになりましたが、同時にぎわめて稀少なものであることが明らかになったといえます。

宋時代の彫漆には、花鳥や人物などの文様を彫り表した堆黒や堆朱、

抽象的な文様の犀皮や屈輪がありまです。これらは中国における彫漆全盛期の前段階に位置付けられるものとして、歴史的に重要な意味をもつばかりでなく、その精緻な文様表現は、独自の魅力をそなえています。

作品は中国にもほとんど残されていません。その多くはわが国に伝来したものであり、日本は中国漆器の宝庫といつことができます。日本に伝えられた中国宋代の彫漆の作品がまとまって展示されるのははじめてのことです。この貴重な機会を、どうぞお見逃しなく。

考古

弥生人の暮らしや神話に迫る 特集陳列「銅鐸の絵画」

9月1日(水)～10月11日(月・祝) 本館特別4室



●銅鐸 伝香川県出土
弥生時代中期・紀元前2世紀～紀元前1世紀
狩の場面。彼らの暮らしを今に伝える貴重な絵画

青銅のキャンバスに表現された弥生の世界。そこには弥生の人々や彼らを取り巻くさまざまな生き物、そして建物が描かれています。こうした絵画の本質的な意味はまだはっきりわかりませんが、しかし、これらは銅鐸の機能をより高めるために描かれたものであり、銅

鐸の謎を解く鍵を握っていることだけは確かでしょう。

今回は、当館が所蔵する絵画が描かれた銅鐸を一堂に展示、様々に表現された銅鐸の絵画から、弥生人の暮らしや彼らの神話・物語に迫りたいと思います。華麗な文様で飾られた銅鐸をあわせて展示し、弥生人の心を探るとともに、日本絵画の原点とも言える弥生絵画の世界を紹介したいと思います。(井上洋一)



犀皮盆 北宋時代・12世紀
朱漆と黄漆を交互に重ねて、美しい文様を表した盆

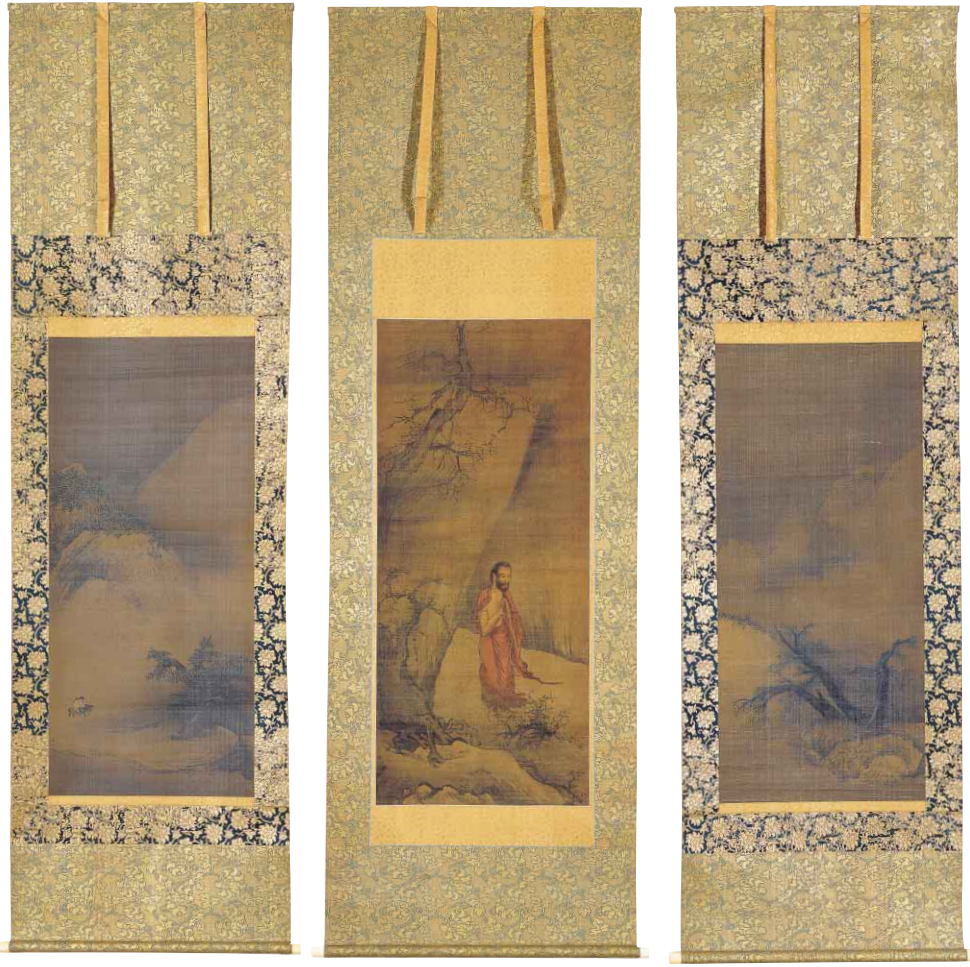
梁楷の名品、28年ぶりに三幅揃って公開 特集陳列「中国書画精華」

前期 10月5日(火)～10月31日(日) 後期 11月2日(火)～11月28日(日) 東洋館8室

今年も秋は中国書画の名品を精選して展示します。絵画は前期に「宋代の絵画」を特集します。●李氏筆 瀟湘臥遊図巻、●李迪筆 紅白芙蓉図のほか、昨年度の新収品で東山御物の由緒をもつ 伝梁楷筆 雪景山水図を、 出山釈迦図、●雪景山水図

とともに三幅揃いで展示します。この梁楷の「出山釈迦 雪景山水」三幅対の展示は、昭和五十一年の東山御物展(根津美術館・徳川美術館)以来、実に二十八年ぶりの公開になります。また、梁楷の水墨画を代表する李白吟行図、 六祖截竹図も合わせ

せて展示します。梁楷の作品を心ゆくまで御鑑賞ください。後期は伝石恪筆「一祖調心図」●因陀羅筆「寒山拾得図」、 伝顔輝筆「寒山拾得図」、 李在筆「山水図」、徐渭筆「花卉雜画」巻などを展示します。書跡は前後期を通して、●碣石調幽蘭第五、米芾筆行書三帖巻、黃庭堅筆「王史二氏墓誌銘稿巻」、●圓悟克勤筆「印可状」流れ「圓悟」、●張即之筆「禪院額字」(東福寺蔵)などの歴代の名品を選んで展示します。(湊 信幸)



左から、●雪景山水図 梁楷筆 南宋時代・13世紀、 出山釈迦図 梁楷筆 南宋時代・13世紀、 雪景山水図 伝梁楷筆 南宋～元時代・13～14世紀

散歩かんふっく 10

寛永寺本坊門址記念プレート

ありき...

みなさまが当館をご覧なさる際に、かならずご利用なさるものがあります。何だと思われませんか。そう、正門ですね。本館に向かって右側が普段みなさまが利用される門ですよね。警備や案内の職員が立っているあの場所です。門柱があった、券売所があります。その裏に縦25センチ、横28センチの小さな青銅のプレートが埋められています。そこには、此処は東叡山寛永寺本坊の門址なり...の文言が刻まれ、下部には明治初年の黒門の旧構が彫られています。黒門が当館の正門だったことはお話し上げたいと思います(本誌66号)と思いましたが、このプレートは現本館が完成したときに、コンクリート製の門に変えられました。その時にこのプレートを

作ったのです。その後平成に入ってから正門を改修しましたが、プレートを残したのは英断でした。ところで、平成館の前にはコンクリートで固められた階段状の前庭が付属しています。あの前庭の下には別館の基部分が埋まっています。別館といっても若い人はご存知ありませんが、上野の総理官邸などにもいわれていた、階建て瓦葺の美しい建物でした。玄関近くにあった桜がとてもすてきだったのを覚えています。何を申し上げたいか、おわかりいただけましたでしょうか。そう、「ここに別館ありき...」です。かつての当館の建造物を記念するために...

(上野仁哉)



正門のチケット売り場の裏側のプレート
「此処は東叡山寛永寺本坊の門址なり。門は寛永二年の創建にかかり明治初年本館へ移管され久しくその正門たりしが昭和十一年十二月東叡山輪王寺に移さる。図は明治初年の旧構を三小。」

10月26日(火)～12月5日(日) 特別3室・特別4室

修理作品の展示と多様な講座・舞台裏ツアーなどで、保存と修理の世界を多角的に紹介

今年で五回目を迎える本展覧会は、当館保有の文化財の保存修理について紹介します。昨年度修理を行いました百七十一件のなかから特別3室は、修理材料として活躍する和紙にスポットをあてた陳列とし、前九年合戦絵巻、寺島宗則像、寸松庵色紙などの絹、和紙、カンバスに描かれた作品と修理に使用する和紙や紙質検査等について多角的に扱います。特別4室では、馬冠、鉄鉞や注口土器、十組盤、タイ更紗など多様な素材の修理作品を展示いたします。あわせて、講座や講演会、さらに保存科学の現場を見学するツアーも実施します。(澤田むつ代)

馬冠 西周時代・紀元前11世紀～紀元前8世紀



修理前 縦にふたつに割れ、各所に補修がみられる



修理後 裏面を型取りして製作した安定台に載せた状態

教育普及事業のお知らせ 講座・講演会

月例講演会

- 9月25日(土)13時30分～15時(90分間)
「宋時代の彫漆」 当館副館長 西岡康宏
- 10月23日(土)13時30分～15時(90分間)
「中国の山水画」 当館文化財部長 湊 信幸
- 11月13日(土)13時30分～15時(90分間)
「慈雲の生涯と思想」
京都大学名誉教授 上山春平
- 12月4日(土)13時30分～15時(90分間)
「刀剣鑑賞入門」 当館上席研究員 原田一敏
- 2005年1月15日(土)13時30分～15時(90分間)
「平安朝の貴族生活と『白氏詩巻』」
当館展示課長 島谷弘幸
- 2月5日(土)13時30分～15時(90分間)
「金・銀・銅の芸術～東洋金工の魅力・入門編～」
当館事業企画課長 松本伸之
- 3月19日(土)13時30分～15時(90分間)
「琳派の蒔絵
本阿弥光悦、尾形光琳の作品を中心に」
当館上席研究員 小松大秀

会場：平成館大講堂

定員：380名(当日先着順)

聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

特別展開催期間中は12時15分より整理券を配付する場合がございます。配布する場合は、当日、正門で看板にて告知いたします。

親と子のギャラリー

博物館ってどんなところ? : 宝もの編

11月9日(火)～12月26日(日)

平成館1階企画展示室

博物館にあるものはすべて、ずっと伝えていかなくてはならない、たいせつな宝ものです。昨年の「はたらく人たちが」に続く「博物館



ってどんなところ?」シリーズの第二弾は、博物館の宝もの「文化財」に焦点を当てます。博物館には、みんなが宝ものと納得できるもの、どうしてこれが宝ものかと思うような意外なもの、そのたいせつさが後から発見されたものなど、さまざまな文化財があります。これらにまつわるおもしろいエピソードを紹介します。また、「一番大きいものと小さいもの」「宝ものはどこから来たの?」「博物館にある国宝について」など、博物館によくあるお問い合わせにもお答えします。文化財に親しむと同時に、そのたいせつさを知り、さらに自分にとってのたいせつな宝ものについても考えてみていただければと思います。会期中には、博物館と宝ものについてのワークショップも予定しています。詳細は次号でご案内します。お楽しみに!

関連事業

1. 小中学生のための文化財講座

“よろこび! 保存と修理の現場へ”

展示室や収蔵庫の環境整備や修理の具体例、館内での鑑賞マナーなど文化財の保存に関するレクチャーと展示室の見学。

対象：小学生(5・6年生)～中学生

日時：11月23日(火・祝)
13時30分～14時15分

会場：資料館セミナー室

定員：60名(当日先着順)

13時15分に本館玄関前(館内)にお集まりください

2. 見学ツアー()

“保存と修理の現場へ行こう”

学校でのグループ参加を対象とした、文化財の保存と修理についての解説および修理室の見学ツアー。

対象：中学生・高校生

日時：12月1日(水)

第1回 10時30分～11時30分

第2回 14時～15時

会場：平成館小講堂・修理室

定員：30名(引率者を含む複数のグループ(事前申込、先着順))

官製往復はがきでお申込ください。原則として学校単位による教職員からの申込となります。～を「往信用裏面」に記載の上、お申込ください。

学校名・学年 郵便番号・住所
電話番号(学校および申込者) 参加希望回(第2希望まで) 生徒の人数
当日の引率者名(ふりがな)と人数

3. 見学ツアー()

“保存と修理の現場へ行こう”

一般の参加者を対象とした、文化財の保存と修理についての解説および修理室の見学ツアー。

対象：大学生以上・一般

日時：第1回 10月27日(水)13時30分～15時
第2回 11月17日(水)13時30分～15時

会場：平成館小講堂・修理室

定員：各回30名(事前申込)

官製往復はがきでお申込ください。

締切：第1回 10月8日(金)必着

第2回 10月29日(金)必着

「往信用裏面」に郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、希望日を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記して下記までお申込ください。1枚のはがきで1人のお申込となります。定員超過の場合は抽選。参加通知をお送りします

【見学ツアー・申込先】

〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館教育講座室

「見学ツアー係」まで

4. 座談会「博物館の環境を守る」

日時：11月20日(土)13時30分～15時

会場：大講堂

定員：380名(当日先着順)

出席者：神庭信幸(当館保存修復課長)・

本田光子(九州国立博物館(仮称)設立準備室主幹)・長屋菜

津子(愛知県立美術館学芸員)

聴講無料(ただし当日の入館料が必要)

時間までに会場にお集まりください。

開場13時予定

5. ギャラリートーク(列品解説)

修理品の解説

日時：

10月26日(火) 神庭信幸

「博物館における保存修復活動の新局面」

11月2日(火) 高橋裕次

「紙と修復」

11月9日(火) 和田 浩

「科学の目で見る文化財」

11月16日(火) 土屋裕子

「作品のオリジナリティについて」

11月24日(水) 澤田むつ代

「書画の表具裂」

*各回とも14時～

会場：本館特別3室・特別4室

聴講無料(ただし当日の入館料が必要)

当日時間までに会場にお集まりくだ

さい



第1回

「保存と修理の世界」

ご案内 保存修復課長 神庭 信幸



博物館では、展示や解説、イベントなど皆さんが実際にご覧になる事業を作り上げるため、見えないところで多くの人がさまざまな仕事をしています。

新連載「ようこそ！博物館の舞台裏へ」では、博物館の、もう一つの世界をご紹介します。第一回は、文化財の保存と修理の世界に当館神庭保存修復課長がご案内します。

現在、東京国立博物館では約十二万点、点数で言えば一〇〇万点以上の収蔵品と、社寺や個人等からの寄託品をあわせ膨大な数の文化財を保管しています。博物館にはそれらを永く後世に伝えてゆく使命があります。

一方、優れた文化財を展示・公開するのも博物館の重要な役割です。ところが作品は、展示すれば傷みます。この保存と公開の両立は博物館にとって永遠の課題といえましょう。

保存と修理の世界は、大きく三つに分けることができます。一、環境保全計画 二、修理・修復 三、調査・分析です。この環境・修理・調査・分析をきちんと順序立てることが重要となります。それでは三つについて順にご案内しましょう。

環境保全計画

作品を傷めない努力

文化財の保存と修理という、修理の方、つまり傷んでしまったものの処置について取りざたされることが多いのですが、より重要なのは傷まないように、また傷みが進行しないように



展示ケース内への湿度調節剤設置



燻蒸作業。展示の前に、外から持ち込まれた作品などについている虫や有害な物質を殺す

作品を保存する環境を整えることで、人間が病気にかからないように普段から食生活に気をつけたりして予防するのと同じですね。文化財保存の世界では、この仕事を「環境保全計画」と呼んでいます。東博は一三〇年を超える歴史を持ち、一〇〇万点を超える収蔵品のほとんどが「古美術」で、千年以上前に制作されたものも少なくありません。材質も紙や木、布など経年により劣化が進みやすいデリケートなものが多い。ところが、1年間に本格的に修理ができるのはせいぜい

一〇〇点程度、修理だけに頼っていたら一万年たっても終わらない。修理の順番を待つ間にどんどん劣化が進んでしまいます。文化財にとって良い環境を整えることがいかに重要かわかりただけでしたが。

「環境保全計画」は主に、適正な湿度の管理、虫やカビから守る、汚染物質から守る、光から守る、防災の五事項があります。

温湿度の管理には、空調などを使って環境を人工的に適正なものに整えて維持すること、温湿度の変化を小

さくすることで適正な環境の維持に努めることがあります。その際には、電気など人工的なエネルギーだけに頼らずに安定した環境を保つ工夫が必要です。例えば収蔵庫の床や壁には、木材または同様の特性をもつ素材が使われていますが、木は呼吸するので自然に調湿材の役割を果たします。その他、湿度調節剤で展示ケース内が適正な湿度になるようにしています。古来の日本人の知恵に現代の科学技術を組み合わせ、より適正な環境で作品を保管するようにしているのです。

展示室や収蔵庫など作品が置かれる場所の温湿度をチェックするため、全館に毛髪温湿度計や、データ・ロガーと呼ばれる温湿度を記録する機材を設置し、合計約一三〇カ所を測定しています。これらで得たデータは保存修復課で一元管理し、作品の置かれた環境の変化や適正に維持されているかを常に確認しています。

虫やカビ対策としては館



「毘沙門天立像」のX線透過写真撮影直後に仕上がり確認のため並べられたフィルム

展示室や収蔵庫など作品が置かれる場所の温湿度をチェックするため、全館に毛髪温湿度計や、データ・ロガーと呼ばれる温湿度を記録する機材を設置し、合計約一三〇カ所を測定しています。これらで得たデータは保存修復課で一元管理し、作品の置かれた環境の変化や適正に維持されているかを常に確認しています。



文化財防災ウィール(文化庁発行、文化財保存修復学会監修) 専門家がつくった危機管理マニュアル。災害発生から救出までの要領が一目でわかる

また、近年環境汚染への関心が高まっていますが、大気汚染は当然作品にも影響を与えます。汚れた空気が入る

内、飲食できるエリアは制限し、作品のあるところに虫が入り込まないようにしています。また、トラップへ補虫器(という、いわゆる「コキブリはいはい」のよつなものを設置する場合もあり)もありません。また、館内で虫を発見した人からの連絡は、生息状況の把握に役立ちます。カビ対策では、定期的な生息調査をしながら、湿度管理と清掃の徹底によるほこりやすすの除去によって、カビが発生しないようにしています。これらの状況は、毎年「環境報告書」を作成、管理状況の評価の基礎資料としています。



「十六羅漢図」の修理。オリジナルでない部分を除去し、そこに絹をうめる補絹という作業。この際、真新しい絹でなく、わざと劣化した絹を使い、他の部分と違和感がないようにする



左：法隆寺献納宝物「広東綾幡」の修理。展示に耐えうるよう、20年以上前にかたく縫いつけられた台ざれから外して元の形に戻しているところ。縫い糸を1本1本外す作業は本当に根気のいる気の長い作業。この後本格修理にかかる
右：修理室内の道具置き場。さまざまなはけや修理記録のファイルが整然と並ぶ

針・方法を定める上で不可欠です。また、作品の調査は非破壊、つまり作品を傷つけないことが大原則です。

現在は法隆寺献納宝物の染織品の染料調査を計画中です。これは、法隆寺宝物館で行われている染織品の修理の過程で得られた染料の粉を使い、千年以上前に制作された布が何で染められた

いたかを調べようとするものです。修理にあたっては、必ず事前調査を行い、作品の現状や過去の修復箇所についてその程度や部位を知った上で最適な処置の方法を検討します。まずは肉眼による観察、さらにルーペや顕微鏡でじっくり観察します。次に、写真記録をとります。写真は、通常のフィルムによる写真の他、光を資料の表面に平行に照射する測光線写真、表面の記録に最適、赤外線写真、紫外線蛍光写真、X線透過写真などがあります。

す。X線写真は、内部構造を見るのに最適なため、作品制作の技術の解明に役立ちます。

科学技術の進歩により、制作当時の技術や材料を推定するために得られる情報が飛躍的に増えたことは間違いないありません。こうした調査は、当時のような材料が多く流通していたか、またどのような技術が発達していたかなど、の社会背景を知る可能性を広げます。調査によって歴史が復元されていくのです。(構成 鬼頭智美)

てこないよう、建物によっては専用のフィルターが設置されています。また、作品が有害なガスにさらされないよう、作品に直接触れるものには中性の材料が使用されます。

ところで、皆さんから、展示室が暗すぎる、というお叱りを受けることがあります。展示室は光によってダメージを受けます。展示室のライトは紫外線が出ず、色を忠実に再現する博物館用のものが使われています。その上で、作品の材質によっては明るさを制限しています。ただし、保存のために暗く見づらくならないよう、照明の工夫にも知恵を出し合っています。

地震対策としては、免震装置の設置があります。彫刻や陶磁器などの展示台が二重のものがあるのにお気づきでしょうか。これは、地震の際、揺れを小さくする免震台を置いているからです。小さいもの場合はテグスで補助する場合があります。地震

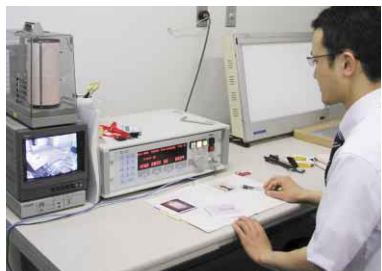
震だけでなく、台風で水浸しになってしまった場合、地震で床に落ちて作品が粉々になってしまった場合などさまざまな場合を想定してのマニュアルを作成、「いざ」というときに備えています。

修理・修復 傷みを遅らせる

さまざまな努力をしても文化財は年を経ることに確実に劣化していきます。そこで、応急処置として小規模な修理を行いながら劣化のスピードを遅らせます。絵画作品などの古いマットを有害な酸性紙から中性紙に替える、掛け軸のひもを取り替える、彩色されている部分の剥落を止めるなどの作業は日常的に行われ、個々の作品を展示に耐えうる状態にしています。



X線撮影
仏像の後ろにX線フィルムを置いて撮影する。修理の際にはこのような撮影が行われる



X線撮影をする部屋(放射線管理区域)のすぐ外で撮影状況を確認

ですべて民間の工房に依頼していた書画の修復作業を、二年前から少しずつですが館内で行うことができるようになりました。館の中で修理をすれば、一つの作品あるいは作品群を長期的にケアすることができ、修理の行程記録は全て館の資料となります。また、本格修理だけでなく、ちょっとした応急処置を専門技術者の手で、しかも館内で迅速に行うことができます。日常的にきめ細かな作品のケアをしてゆくには、こうした専門技術者の存在は不可欠といえます。

調査・分析 歴史を甦らせる

それぞれの作品が現在どのような状態にあるかを知ることが、環境保全計画を立てる上で、また、修理する作品の優先順位、方針・方法を定める上で不可欠です。また、作品の調査は非破壊、つまり作品を傷つけないことが大原則です。

修復をどこまでやるか、どの材料や方法を用いるかを決めるのは、一通りではありません。その作業は大変細かなものです。



粉になってしまった染織品の部分。紫は弱いようである。これらは修理の際得られた貴重なサンプル



蛍光X線調査。絵具や地塗りの種類を調べる

コンサート・演劇公演のお知らせ

岡田博美ピアノコンサート

日時 10月4日(月) 18時30分開場、19時開演
場所 東京国立博物館 平成館ラウンジ
演奏 岡田博美
主催 東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
演奏曲 J.S. バッハ：コラ・ル「主よ人の望みの喜びよ」
 アルベニス：イベリア第2巻
 矢代秋雄：ノクチュルヌ(1947/1949)
 ショパン：ノクターン Op.15 No.2
 リャプノフ：レスギンカ(超絶技巧練習曲第10番)ほか
料金 5,000円(平常展入場券付)



チケットのお求め方法

当館正門観覧券売り場でチケット販売

受付 開館日の9時30分～16時30分

9月末までの土、日、祝、休日は17時30分まで、特別展開催期間中の金曜日は19時30分まで

電話予約販売

申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL 03-3821-9270

受付 9時30分～17時(月曜～金曜)

*チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引換にてお渡しします。

ク・ナウカシアター・カンパニー 演劇公演

「アンティゴネ」

『オイディプス王』と並ぶギリシャ悲劇の傑作にク・ナウカが挑みます。ギリシャでの公演後の帰国公演となります。

日時 10月8日(金)～20日(水) 12日(火)は休演)

月・火・木・土・日曜は19時半、水曜は19時、

金曜は20時開演

会場 東京国立博物館 本館前庭野外特設舞台

出演 ク・ナウカシアターカンパニー

主催 東京国立博物館、ク・ナウカシアター・カンパニー

料金 前売・予約一般 4,300円(平常展入場券付)

当日一般 4,500円 学生席 2,500円(平常展入場券付)

団体(10名以上) 4,000円/枚

*チケットは東京国立博物館窓口、ク・ナウカ、チケットぴあで販売

*チケットの予約、お問い合わせは
ク・ナウカ TEL 03-3779-7653

東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理・調査研究・平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解・賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

年会費	
特別会員	100万円以上
維持会員	法人 20万円 個人 5万円

特典
 特別展の特別内覧会にご招待
 国立博物館ニュースの送付
 * 賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
 * ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(1111 Members)入会申込書をお送りします。
 * お問い合わせは
 東京国立博物館営業開発部
 賛助会担当
 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2004年7月31日現在

特別会員

- 日本電設工業株式会社 様
- 東京電力株式会社 様
- 株式会社コア 様
- 明治安田生命保険相互会社 様
- 株式会社 精養軒 様
- 毎日新聞社 様
- 大日本印刷株式会社 様
- 株式会社 大林組 東京本社 様
- 朝日新聞社 様
- 株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
- 株式会社 ミロク情報サービス 様
- TBS 様
- NHK 様
- 東京新聞・中日新聞社 様
- 株式会社 電通 様
- 読売新聞東京本社 様

維持会員

- 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
 - 早乙女 節子 様
 - 株式会社 三冷社 様
 - 宇津野 和俊 様
 - 伊藤 信彦 様
 - 小金井造園株式会社 様
 - 財団法人ソニー教育財団 様
 - 株式会社 NTTドコモ 様
 - 斎藤 京子 様
 - 井上 萬里子 様
 - 田添 博 様
 - 京菓匠 鶴屋吉信 様
 - 株式会社 東京美術 様
 - 服部 徳次郎 様
- ほか6名3社、順不同

本館リニューアル記念企画のお知らせ

9月1日の本館リニューアルオープンを祝して、ミュージアムショップ、ホテルオークラ ガーデンテラス レストラン、ラコールで記念企画を予定しています。ご来館の際にはぜひお立ち寄りください。

実施期間 9月1日(水)～26日(日)

ミュージアムショップ

(本館地下/東洋館1階)

2000円以上お買いあげのお客様に、東京国立博物館ミュージアムショップ特製「クリアファイル」を無料でプレゼント。

ホテルオークラ ガーデンテラス

(法隆寺宝物館)

1「本館リニューアル」特別メニューをご提供します。

2 ランチプレートなどの限定メニューをお食事されたお客様に「プチデザート」をサービスします。

3 1回のお食事でお一人様1500円以上お召し上がりいただいたお客様は、「ガーデンテラスお食事券」
「ホテルオークラ商品」などが当たるスタートダッシュがひけます。

レストラン ラコール

(東洋館)
1「本館リニューアル」特別メニューをご提供します。

2 1の特別メニューをお食事されたお客様に「デザートメニュー(限定2品くらい)」から、お好きなデザートをサービスします。

3 1回のお食事でお一人様1500円以上お召し上がりいただいたお客様は、「精養軒オリジナルワイン」
「お菓子の詰め合わせ」などが当たるくじがひけます。

東京国立博物館友の会 & パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効
特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送や、友の会対象のイベント・講演会の開催などさまざまな特典があります

パスポート 一般 3000円 学生 2000円
 発行日から1年間有効
特典 東京・京都・奈良国立博物館3館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、各1回計6回までご覧いただけます

お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会
加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会
口座番号 00160-6-406616
金額 1万円
 * 振替用紙には職業・年齢・性別・メールアドレス・ご希望のプレゼント番号(下記 ~ の中からお選びください)を楷書でご記入ください
 双筆箋『秋冬山水図』 双筆箋『夏秋草図屏風』
 一筆箋『見返り美人図』 クリアファイル&浮世絵ボールペン

パスポート
加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート
口座番号 00120-3-665737
金額 一般3000円、学生2000円
 * 振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください
 * 振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
 * 振替手数料はお客様の負担となります
 * 郵便振替でのお申込には2週間かかります

お問い合わせ
 TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担をお届けします

お申し込みは郵便振替で
加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース
口座番号 00100-2-388101
 * 振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
 * お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください
 * 振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
 * 振替手数料は申込者のご負担となります
 * 次号より送付ご希望の場合、締め切りは10月10日です

東京国立博物館利用案内

閉館時間 : 9時30分~17時、4月~11月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月~9月の土・日・祝・休日は18時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日 : 毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月1日)、ゴールデンウィークおよび夏休み期間(7月20日~8月31日)は原則として無休

平常展観覧料金
 一般420(210)円、大学生130(70)円
 *()内は20名以上の団体料金
 * 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
 * 満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

9月20日(月・祝)敬老の日は無料観覧日です

「リニキュアル記念 日本美術五十選」「ガイドブック」の刊行のお知らせ
 本館のリニキュアルオープンを記念して、「東京国立博物館 日本美術五十選」と新しい本館の展示案内を盛り込んだガイドブックを刊行します。「五十選」では当館の所蔵品から特に名品とされるもの、人気の高いものをより詳しく、作品の部分拡大も盛り込んだ豊富なカラー写真とやさしい解説でご紹介します。作品を間近で見るとような迫力を味わっていただけるでしょう。日本語版のほか英語版も刊行予定。海外へのお土産にも最適です。



「東京国立博物館 日本美術五十選」
 B5判 128ページ オールカラー 1200円(予価)
 「東京国立博物館ハンドブック」
 A5判 56ページ オールカラー 販売価格未定
 9月1日刊行

『MUSEUM』591号
 (平成16年8月15日発行)の掲載論文
特集・東福寺の中世彫刻
 「東福寺仏殿釈迦三尊像について」 浅見龍介(当館出版企画室長)
 「東福寺仏殿の四天王像」 多聞天を中心に
 「山本勉 当館教育普及室長」
 「東福寺の彫刻」 南北朝・室町時代の遺品を中心に
 「根立研介(京都大学助教授)」
 * 購読のお問い合わせは
当館ミュージアムショップ
 03 3822 0088まで

Who's Who in 東博
電気の見張り番
 環境整備室(電気担当) **中島光吉**さん

東京国立博物館には7ヶ所変電所がありますが、これらが問題なく稼働し、電気が無駄なく使用されるよう、中央監視室で調整しています。夏場は一日で三万キロワットを超える電力が消費されますが、これをいかに効率よく全館に配分するかが重要です。空調やエレベーター、照明など電気が関わる機器の管理もすべて仕事のうちです。始業時間と閉館時間の前後は、いつせいにさまざまな電気機器が動き始めるので最も大変な時間帯です。博物館に電気技師として働き始めて三十四年、入ったときは、まずこの広い敷地内すべての電気系統とコンセントの位置など天井裏から地下まで歩き回って覚えてきました。当時に比べて新しい建物が加わり、パソコンなど電気を多用する機器の使用量は増える一方、環境問題が深刻になって節電も重要な課題です。おかげさまで、夜間電力を有効利用する設備を配置、省エネルギーで賞もいただきました。貴重なエネルギーが100%有効に使われるように努力したいと思います。

1 WED	1 リレーレクチャー「日本美術12000年」13:30、14:45 平成館大講堂 本館リニューアルグランドオープン 14:30 15:00
2 THU	1 リレーレクチャー「日本美術12000年」13:30、14:45 平成館大講堂 14:00
3 FRI	1 リレーレクチャー「日本美術12000年」13:30、14:45 平成館大講堂 14:30
4 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 14:30 15:00 リニューアルトーク「大好き!日本美術」13:30 本館特別5室
5 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30
6 MON	休館日
7 TUE	リニューアルレクチャー 14:00、14:30 平成館大講堂
8 WED	14:00 14:30 15:00
9 THU	14:00
10 FRI	14:00 14:30
11 SAT	テーマ別講演会「日本の水墨画」第4回「水墨画の変容」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 15:00
12 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
13 MON	休館日
14 TUE	列品解説「銅鐸の絵画」14:00 本館特別4室
15 WED	14:00 14:30 15:00
16 THU	14:00
17 FRI	14:00 14:30
18 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 14:30 15:00 記念講演会「生まれ変わった本館」13:30 平成館大講堂 雅楽演奏 13:00、15:00 本館エントランスホール
19 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 雅楽演奏 13:00、15:00 本館エントランスホール
20 MON	無料観覧日 時間延長(18:00まで)
21 TUE	休館日
22 WED	列品解説「中世水墨画の賛について」14:00 本館3室 14:00 14:30 15:00
23 THU	時間延長(18:00まで) 14:00
24 FRI	14:00 14:30
25 SAT	月例講演会「宋時代の彫漆」13:30 平成館大講堂 時間延長(18:00まで) 14:00 14:10 15:00
26 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30
27 MON	休館日
28 TUE	「中国国宝展」列品解説「日御碕神社所蔵国宝白糸威鎧 - 文化二年の修理を中心に - 」14:00 本館6室
29 WED	14:30 15:00
30 THU	14:00

1 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30
2 SAT	14:00 14:10 14:30 15:00
3 SUN	14:30
4 MON	休館日 2 岡田博美 ピアノコンサート 19:00 平成館ラウンジ
5 TUE	列品解説「黒花崗岩製サクメト女神倚像について」 東洋館第3室
6 WED	14:00 14:30 15:00
7 THU	3 リニューアルトーク「女性と美術」13:30 本館特別5室 14:00
8 FRI	夜間開館 20:00まで) 5 演劇公演「アンティゴネ」 14:00 14:30
9 SAT	4 記念講演会「中国の仏教美術」13:30 平成館大講堂 14:00 14:10 15:00
10 SUN	14:00 14:30
11 MON	
12 TUE	休館日
13 WED	列品解説「梁楷の三幅対について」 14:00 14:30 15:00 東洋館第8室
14 THU	14:00
15 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:00 14:30
16 SAT	14:00 14:10 14:30 15:00
17 SUN	14:00 14:30
18 MON	休館日
19 TUE	列品解説「仏像の彩色」 本館11室
20 WED	14:00 14:30 15:00 「アンティゴネ」最終日
21 THU	14:00
22 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:00 14:30
23 SAT	月例講演会「中国の山水画」13:30 平成館大講堂 14:00 14:10 15:00
24 SUN	14:00 14:30
25 MON	休館日
26 TUE	列品解説「博物館における保存修復活動の新局面」 本館特別3・4室
27 WED	6 見学ツアー() 保存と修理の現場へ行こう 13:30 14:30 15:00
28 THU	14:00
29 FRI	夜間開館 20:00まで) 14:30
30 SAT	7 記念講演会「中国考古学の新発見」13:30 平成館大講堂 14:00 14:10 15:00
31 SUN	14:30

- 🌳 = ボランティアによる樹木ツアー 場所: 前庭内
- 👤 = ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド 場所: 本館2F
- 👤 = ボランティアによる本館ハイライトツアー 場所: 本館
- 👤 = ボランティアによる陶磁展示エリアガイド 場所: 本館1F
- 👤 = ボランティアによる考古展示室ガイド 場所: 平成館考古展示室
- 👤 = ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド 場所: 法隆寺宝物館

11/28まで
1は毎回内容が違います。詳しくは本誌5ページをご覧ください。
2,3,5は有料イベントです。詳細は、本誌5ページ(3)14ページ(2,5)をご覧ください。
4,6,7は事前申込制です。詳しくは本誌7ページ(4,7)11ページ(6)をご覧ください。
*上記の予定は予告なく変更になることがあります。
当日の予定は、インフォメーションカウンターでご確認ください。

東京国立博物館 コース第667号 平成16年9月1日発行 隔月1回(奇数月発行) 編集/東京国立博物館広報室 C 東京国立博物館
発行/東京国立博物館 TEL110 87112 東京都台東区上野公園13-9 TEL03 38822111(大代表) *ホームページ URL http://www.nnm.jp/ 独立行政法人国立博物館ホームページ URL http://www.nnm.jp/ 制作・印刷/株ONPアーカイブ・コム